

iOS12のペアレンタルコントロール“ForKids”の効果を高めるアプローチ

アプローチ1 最初に iPhone を渡すとき

1. 効果を高める考え方

2018 年秋には、iPhone/iPad の機能やアプリ別に使用時間の制限を保護者の管理下でできるようになります。同じ時期にリリースされる Android P にも同様の機能が実装される予定ですので、同じアプローチが可能です。設定の技術的なことは、時期が来れば各種サイトに掲載されるでしょう。

ここで大切なのは、保護者がどのような考え方をもち、子どもとどのようなことを話し合い、どんな設定をすればよいかです。この資料では、その考え方を示します。

●保護者として理解しておくべきネット社会の状況と対応

- ・スマホ・ネットの社会への影響力や危険性は年々高まっている
⇒あらゆるツールは、社会に対する影響力が強いほど、危険性が高いほど、規制は厳しくすべき
- ・子どものスマホ・ネット利用は心と体の健康、知能・心身の発達に弊害がある
⇒様々な弊害が事例・症例としてあげられ、それらの学術的なエビデンスが次々と出されている
- ・ネットの登場で個人が得られる情報は百万倍～数億倍に激増している
⇒接する情報を制限する、不要な情報を遮断することが情報リテラシーとして重要
- ・どんなに知識と経験があってもネット利用は100%安全にはならない
⇒正しい使い方でも、法的、社会的、経済的問題が発生する危険性がある
- ・責任能力(法的、社会的、経済的)が無い未成年者は、保護者が責任を負う
⇒加重な責任を未成年者に負わせるのは「守られる権利」の侵害
- ・未成年者のスマホ・ネット利用は「リスクを覚悟し、それでも必要な機能を最小限利用する」
⇒保護者が責任を負い得る機能と利用時間だけに限定する

2. 子どもとの話しあい～「わからない」を武器にする

- ・保護者が「わからないもの」からは守りようがない。⇒**わかるまで使わせない**
保護者としてどっしり構える。
- ・保護者が「わからないもの」について、子どもの話を良く聞き教えてもらう。
⇒子どもがやりたいと思っている(やっている)ことの内容(動画やゲームの内容まで)、目的、理由、必要性を良く聞いて理解する
「わからない」のだから子どもに教えてもらう。
教えてもらうのだから、途中で説教などしない。
- ・保護者は本気で話を聞き、理解する姿勢。**本気＝「保護者として納得できれば使わせていい」**
本気で聞けば、本気で話してくれる。
本気で聞くから子どもは対話することに意義を見出す。
- ・保護者が心配や危険を感じるものについて子どもとよく話し合う
⇒何が心配でどうしたら安全になるか意見を出し合う
保護者の意見は「私は」を主語にする。
「私は、使いすぎで睡眠不足になったり、体調を壊したりするんじゃないかと心配」
さらに一言、付け足す。
「あなたはと思う？」
- ・話し合っても、**わからないもの、危険への対策ができないものは使わせない**
「今の説明ではまだ理解できてない。親の責任として理解できないものは使わせられない。」
「その対策ではまだ心配がある。本当に安全と思えるまでは親の責任として使わせられない。」

3. スマホ利用を「本当に必要な機能」だけにする方法

中学生も高校生もスタートは同じ

Start まずは**通話専用**に設定。**カメラ・ネット機能は使用不可**。

スマホの所有者・管理者は保護者です。遠慮なく安全・確実に子どもを守れる設定から始めること。
スマホの設定がわからなければ、販売店に頼むと良い。

Step 1 スマホ・ネットで「**本当に必要な用途**」を子どもが考える

最低1週間は「通話専用」の状態でごしてもらう。

その間にスマホで本当に必要な用途が何なのか、それはなぜかを子どもに考えてもらう。

Step 2 **1つだけ機能を決めてもらい、必要な理由を説明してもらう**

子どもに、どうしても必要な機能を1つだけ決めてもらう。

その1つの機能について親子で取り組んでいく。

Step 3 1つの機能の利用規約を印刷して子どもに読ませ理解したことを保護者に説明してもらう

保護者に説明できるくらいでなければ、理解できているとは言えない。

アプリやサイト利用の際に、利用規約を読んで理解する習慣をつけてもらう。

Step 4 子どもが**必要な理由と健康的・安全に使う約束**を考え文書にしてもらう

付録1「スマホ・ネット利用の約束」の1行目に書き出す。

Step 5 保護者が納得できるまで説明してもらう

「楽しみ」「みんな使っている」等は、「本当に必要な理由」として保護者は納得できるのか？

子どもが考えた約束で、安全、健康は本当に守られるのか。不安や心配は払拭できているか？

何かあった時に責任を取るのは保護者。**保護者が納得できる理由と約束が必要**。

Step 6 保護者が納得したら子ども、保護者の両者とも署名する

子どもは約束を守る、保護者は子どもを守る、という約束。

Step 7 約束どおりにスマホの機能制限を変更する

約束の時間帯だけ1つの機能を使えるように設定変更する。

設定がわからなければ販売店にってもらう。

Step 8 1週間以上のお試し期間

付録1を家族が見える場所に貼り出し、ちゃんと**約束を守れるか試す**。

Step 9 約束を守り続ける

約束を守れている限りは使い続けて良い。

約束を2週間以上守り続けることができたなら、次の機能を選び **Step 4** から始める。

付録1の2行目を使う。

Step 10 約束を破った時の対応

約束を破った機能は、**使用不可に設定して Step 4** からやり直す。

1つの機能の約束を1週間守れないようなら、それ以上の約束は守れません

■スマホ・ネット利用の約束

※利用機能は1つずつ増やします。1つの機能の約束が守れるようになってから次の機能に進みます。

※利用機能ごとに約束を作り本人署名と保護者署名を書いて見える場所に貼り出します。

利用ネット機器				
利用機能 アプリ	利用目的・利用範囲	健康的・安全に使うための約束 約束を守るための仕組み		約束日 本人署名 保護者署名
	<input type="checkbox"/> 利用規約を読んで理解しています	利用時間	時～ 時	年 月 日
		1日合計	分以内	本人
				保護者
	<input type="checkbox"/> 利用規約を読んで理解しています	利用時間	時～ 時	年 月 日
		1日合計	分以内	本人
				保護者
	<input type="checkbox"/> 利用規約を読んで理解しています	利用時間	時～ 時	年 月 日
		1日合計	分以内	本人
				保護者
	<input type="checkbox"/> 利用規約を読んで理解しています	利用時間	時～ 時	年 月 日
		1日合計	分以内	本人
				保護者